

寺報

令和8年(2026)正月号第164号(1)

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺
TEL 024(548)1240
FAX 024(573)1202
ホームページ <http://www.choshuin.jp/>
e-mail choshuin@rainbow.plala.or.jp



発行責任 渡辺 祥文
編集責任 渡辺 秀憲



恭賀新禧

専ら祈る所は

正法興隆 修道無難
国土安穩 万邦和平

特に祈る所は

福寿長久 子孫繁栄
諸災消除 諸縁吉祥

皆様の健康と無事を念じ、あわせて
本年のご多幸を心より祈り上げます

仏紀二五九二年
邦曆令和八年
西曆二〇二六年

元旦

山主 祥文 拝



雲水日記 その二十二

渡辺 秀憲

雪がちらつくようになり、今年も年の瀬が近づいてまいりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

今回は配属された部署「直歳寮」についてでした。今回は「成道会撰心」についてです。

お釈迦様は現インドのブツダガヤ、ネーランジャー河のほとりの菩提樹のもとで坐禅を修行され、明けの明星が輝く夜明けにお悟りを開かれました。日本ではこの日を現在の暦で十二月八日とし、各お寺で「成道会」として、お釈迦様のお悟りを記念する法要が営まれます。

特に曹洞宗を含む禅宗では、成道会にちなみ十二月一日から八日の夜明けにかけて、昼夜を通して坐禅を修行する「撰心」が勤められます。これを「成道会

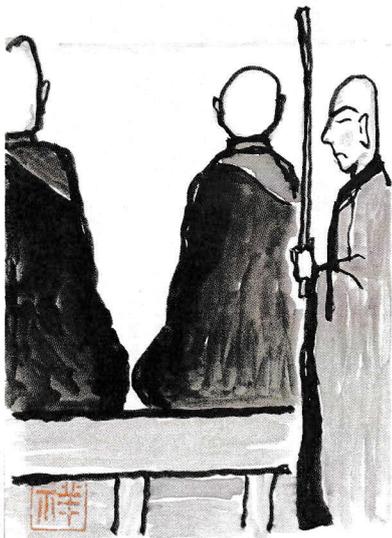
撰心」あるいは「臘八撰心」（臘八：十二月八日のこと）といいます。

成道会撰心の期間中の永平寺は、作務など日常の行事が控えられ、僧堂での坐禅がすべての中心となります。毎日朝昼晩の法要は普段は法堂・仏殿という建物で行われますが、撰心期間中は坐禅を崩さず、そのまま僧堂でお勤めします。参拝者の方は普段と同じようにお参りできますが、期間中は僧堂に近づくこととはできません。参拝者対応・食事の準備・境内の最低限の作務といった、必要不可欠の務めを行う最低限の人員以外は、みな僧堂で坐禅に励むのです。

坐禅には毎日親しんでいる修行僧ですが、一日中八日間という長さは、特に一年目の修行僧にとって未知数の体験。一日中

坐っている日常はいつも以上に刺激がなく、募る足の痛みとしもやけも手伝って、同じ部署の仲間の口数は減るばかり。ついには「今日は坐禅中に三匹虫が前を通った」と言って盛り上がる始末。お釈迦様の尊い禅定の境地には程遠いようです。

七日目は夜通し僧堂で坐禅を行じ、午前一二時頃にお釈迦様が祀られている仏殿にて成道会の法要が営まれ、八日目の夜明けをもって成道会が終わります。法要を終えて外に出ると、空は朝焼け：ではなく、深夜の満天の星空。いつもと同じ時間に参拝者をお迎えするために早く終わるんだな：：と思いつつ、お釈迦様のご覧になったという明けの明星はどれほど輝いていたのかな、と思いをはせるのでした。



令和七年度 梅花流福島県奉詠大会

令和七年十月二十二日 於 パルセ飯坂

梅花流福島県奉詠大会が福島市のパ
ルセ飯坂において十月二十二日に開催
されました。

本年も長秀院・仲興寺両講ともに参
加し登壇奉詠をおつとめ致しました。
また秀憲副住職も昨年度より、運営ス
タッフとして参加しており県内も山内
も梅花大会の一日となりました。特に
本年は大会奉詠の重要なお役である「詠
題」「詠頭」のお役を頂き、丹治敏子氏、
丹治みき氏にご担当頂き、大変有難い
大会となりました。後日、関係各位か
ら立派なご奉詠であったとお誉めの言
葉を頂きました。皆様本当にご苦労様
でした。今後もご詠道にはげまれます
よう、宜しくお願い致します。



長秀院講



仲興寺講

島県奉詠
二十一日
主催 曹洞宗福島県

島県奉詠大会
二十一日
主催 曹洞宗福島県事務所

熊にご注意をお願い致します

十月二十二日の朝、梅花流福島県奉詠大会の参加各位の見送りのため駐車場にいると、浅川中沢の佐藤成治氏が来山され、「熊の親子三匹が地域内を歩いています。皆さん気をつけて!!」と叫ぶように伝えてくださいました。令和七年の秋は熊出没の大騒動となりました。これは野生動物と人間の関係性が明らかに変化したことを理解しなければならぬということだと思います。

そして十二月十二日発表の令和七年の漢字が「熊」、いかに全国的な問題かということだと思えます。冬眠するの可否を含めて、大きな環境の変化、人間が生きる

上での大変化を迎えたと思っております。

何卒早朝や夕方の方の一人でのお墓詣り等、十分に気をつけて頂きたいと存じます。

危険!!



日々の注意を!!

我妻恵華(恵美子)氏 日展入選

長秀院檀徒の黒岩 我妻恵華氏におかれては、日本最高峰の公募展である日展「書」の部門の入選を果たされました。誠におめでとございます。父である高野先生のもと弟子師匠として精進され、今回「書」の篆書部門での令和七年度の入選となりました。本当に名誉なことです。我妻恵華先生の益々のご活躍を念じ上げます。



長秀院十八世中興透宗憲一大和尚（渡辺憲二儀）先住忌（十七回忌）
 長秀院十七世寺族秀慈院心源貞道禅尼上座（渡辺ミノ）寺族忌（五十回忌）

令和七年十二月六日 午後二時三十分 厳修

長秀院において令和七年十二月六日に先代憲一大和尚十七回忌、祖母渡辺ミノの五十回忌法要をおつとめいたしました。先代は本来なら三年前、祖母においては今年の法要でありましたが、コロナ禍もあり、令和七年の法要として修行させて頂きました。

特に祖母の五十回忌は、その顔や姿、声や言葉を覚えていて下さる方々も少なくなり、五十回忌という重みを感じさせられました。

多くの皆様のお陰を忘れず、山門のさらなる発展を期してつとめてまいりたいと存じます。有難うございました。

（住職十九世祥文拝記）



常光寺大方丈様、円通寺大方丈様、好国寺大方丈様のご導師のもと、ご寺院様方、役員様、梅花講各位、そして渡辺家親族のもと法要が修行されました。

除夜の鐘



一年を振り返り、煩惱を払い
鐘を撞いて新年の無事を祈る

2025年12月31日

午後11時30分打出し

マスク着用にて、係の誘導に従って下さい。
誘導に従って撞いていただきますので宜しくお願
いいたします。

行事案内

★長秀院

十二月三十一日 午後十一時三十分

除夜の鐘打出し

元旦 午前零時三十分

元朝祈禱

★仲興寺

元旦 午後一時

元朝祈禱

以降 一月中、年始回礼

年頭回礼だけでは間に合わな
くなつてまいりました。つきま
しては、年末にご挨拶申し上げ
るお宅もでてまいりますので、
何卒宜しくお願い申し上げます。

おねがい

年始回礼中は不在となり
ます。ご相談等の場合はご来
山前に確認をお願いいたし
ます。

電話 〇二四一五四八―二四〇
FAX 〇二四一五七三―二四〇

年回正当

年回正当のほとけ様方のご
命日をご確認ください。ま
た、ご連絡と貼り出しをご
覧頂きますよう、お願いい
たします。

年回表

一周忌	令和七年(二〇二五)
三回忌	令和六年(二〇二四)
七回忌	令和二年(二〇二〇)
十三回忌	平成二十六年(二〇一四)
十七回忌	平成二十二年(二〇一〇)
廿三回忌	平成十六年(二〇〇四)
廿七回忌	平成十二年(二〇〇〇)
卅三回忌	平成六年(一九九四)
卅七回忌	平成二年(一九九〇)
五十回忌	昭和五十二年(一九七七)
百回忌	昭和二年(一九二七)
百五十回忌	明治十年(一八七七)
二百回忌	文政十年(一八二七)
二百五十回忌	安永六年(一七七七)
三百回忌	享保十二年(一七二七)
三百五十回忌	延宝五年(一六七七)
四百回忌	寛永四年(一六二七)